



戦後70年特別企画 前進座公演

まだ、わたしが兵站病院にいたころ、重態の栄養失調患者がいた。
東北出身の若い兵隊であつた。

かれが危篤に陥つた夜は、ちやうどわたしが当直していた。

「なにか、ほしいものは？」これが、臨終の病人にいうきまり文句であつた。
かれはかすかに首をふりながら、かすれた声で

「雪をみたいなあーッ」

「なあーッ」と嘆息したのが、最後の呼吸だつた。

(加東大介「南の島に雪が降る」光文社・知恵の森文庫Ⅱ刊より)

加東大介 | 原作

瀬戸口郁 | 脚本

西川信廣 | 演出 加藤武 | 協力

南の島に 雪が降る

一九三二(昭和六)年五月、前進座結成 その四ヶ月後、満州事変勃発 時代は戦争へと突き進んでいきます…

前進座は、一九三二(昭和六)年五月、当時の歌舞伎界の封建的な弊習と袂を分かち「広汎な民衆の進歩的要求に適合する演劇の創造」をめざし、歌舞伎俳優ら32名の若いメンバーで、その苦難の道を意気高くスタートしました。しかし、その四ヶ月後の九月には、何千万という人の命が奪われた日中・太平洋戦争へと繋がる満州事変が勃発。国中がどんどん戦時体制へと組み込まれていきます。

戦後七十年―― 戦争を繰り返さないために 記憶をつなぐ輪を広げよう

戦後70年…あの戦争の記憶が今ほとんど風化しつつあります。また最近の様々なニュースを見るにつけ、これまでの平和な日本の未来に不安を覚える人は少なくありません。

前進座は、平和であればこそ演劇ができる、戦争の悲惨さを演劇で伝えることができる、そのことを信じて、近年では三浦綾子『母』・『銃口』、神坂次郎『原作』今日われ生きてあり』など、戦争と平和に関わる舞台を創って参りました。そして来年は「戦後七十年特別企画」といたしまして、戦前、前進座の俳優として活躍された加東大介さん原作で、ドラマや映画にもなりました『南の島に雪が降る』を上演させていただくこととなりました。

この作品は、アメリカ軍の猛攻撃と飢えとマラリアで、二十万人とも言われる死者を出したニューギニアの地で、前進座の俳優市川崑司(いちかわ えんし・のちの加東大介)が立ち上げた、奇跡の演芸分隊の物語です。

戦争のむごさや人の命の尊さを描くとともに、本土へも戻れず、常に死と隣り合わせの絶望の淵にある人々に、芝居や音楽は何ができるのか、本当に希望を与えることができるのか、演劇に携わる者にとっては最も深く大切なテーマを、笑いと涙と感動の中に描き上げます。

一人でも多くの方にご覧いただき、再び戦争を繰り返さないために、戦争の記憶をつなぐ輪が広がることを願ひ、多くの皆様のお力添えを心よりお願い申し上げます。

死線をさまよう兵士たち、生きる希望は…芝居！ 命がけで芝居を創り、命がけで芝居を見た、 嘘のような本当の話――

十数万人もの餓死者を出し 凄惨を極めたニューギニア戦線

第二次世界大戦での地域別邦人戦死者数	
日本本土	700,000
沖縄	186,500
満州	245,400
中国本土	465,700
フィリピン	518,000
ビルマ	137,000
東武ニューギニア	127,600
西部ニューギニア	53,000
その他	668,600
計	約3,100,000

戦死、実はその半数以上が餓死であつたということが、最近あらためて注目されています。

戦闘によって命を奪われるのではなく、当時の軍部の無責任な作戦によって、食糧の補給と衛生が軽視され、南方の島々では飢えとマラリアで人々は命を落としました。その最も過酷な戦場の一つが、この物語の舞台となる西部ニューギニアでした。

太平洋戦争が始まってまもなく、日本軍は広大なアジア・太平洋地域を占領しました。東西ニューギニアは、一九四二(昭和十七)年九月にオランダ植民地軍が降伏して以降、日本海軍が統治していました。しかし、やがてニューギニアの東部に位置するガダルカナル島がアメリカ軍によって陥落し、東部ニューギニアでも激しい戦闘が始まります。無謀な軍の命令で、東から西への死の行軍が続き、次々と死んでゆく兵士たち、その数は十三万人、また、西部ニューギニアでは、約7万人とも言われています。

生還できた方々の筆舌に尽くしがたい体験談は、あらためて戦争の愚かさを私たちに突き付けます。



新潮新書「地獄の日本兵 ニューギニア戦線の真相」より転載



前進座の 『南の島に雪が降る』に 期待する

高畑 勲

加東大介さんの原作『南の島に雪が降る』は、一読驚嘆せざるを得ない本です。戦わずして大量の餓死者を出した悲惨極まりない西部ニューギニア戦線。いつ敵が襲ってくるかもしれず、極度の緊張を常に強いられ、飢えと病に苦しみ、



次々と死んでいく兵士。そんな彼らの心を癒し、支え、晴らしてくれるものとして、演芸やお芝居というものがどんなに大きな存在足りえたのか。役者だけでなく、化粧・衣裳・舞台装置・照明などに発揮された演芸分隊員たちの職人根性、打ち込みようがどれほどスゴイものだったのか。米国の強制収容所内などで発揮された驚くべき芸術行為などとともに、日本人論には欠かせない基礎文献のひとつでしょう。

このたび『南の島に雪が降る』が加東さんの出発点だった前進座によって演じられると聞き、大いなる期待とともにいささかの不安が私の胸をよぎりました。それは、この作品が面白すぎるからです。劇中で心打つエピソードが繰り返され、悲しみや笑いがあふれ、ヒューマニズムが示されれば示されるほど、戦下でもこんなにも人間はいいおしく、悲しくも美しいのだ、という心地よい感動ドラマに終わってしまいかねない。それがいかなる極限状態で行われているのか、日本軍が行った戦争が、自軍の兵士に対してさえ、いかに残酷非道なものであったのか、芝居に熱中し笑っている兵士一人一人が、日頃いかに厳しい生活を強いられているのか、それこそがひしひしと若い観客に伝わらなければ、今この名作を取り上げる意味はないのではないか。

前進座ならば、そこをしっかりと感じさせてくれるにちがいないと思い、大いに期待しているところです。

●高畑勲(たかはた いさお)監督プロフィール

アニメーション映画監督。1935年、三重県伊勢市に生まれ、岡山で育つ。59年に東京大学仏文科卒業後、東映動画へ入社。テレビ『狼少年ケン』で初演出。劇場用映画『太陽の王子ホルスの大冒険』(68)で初監督。以後、『アルプスの少女ハイジ』(74)、『母をたずねて三千里』(76)、『赤毛のアン』(79)(以上、TV演出)、『ゼロ弾きのゴースト』(82)、『ジャリン子チエ』(81)、『火垂るの墓』(88)、『おもひでぽろぽろ』(91)、『平成狸合戦ぽんぽこ』(94)、『ホーホケキョとなりの山田くん』(99)を発表。2013年には待望の最新作『かくや姫の物語』が公開された。『風の谷のナウシカ』(84)、『天空の城ラピュタ』(86)のプロデューサー。1985年、宮崎駿監督とともにスタジオジブリ設立に参加。著作に『映画を作りながら考えたこと』『十二世紀のアニメーション』(以上徳間書店刊)、『アニメーション、折にふれて』(岩波書店刊)などがある。



ニューギニア、マノクワリにて
右から2人目が加東大介氏



かとうだいすけ
加東大介 原作

俳優
本名、加藤徳之助
明治44年浅草生まれ

沢村国太郎、沢村貞子の弟。東京府立七中を経て、昭和4年に二代目市川左團次の門に入り、市川崑司(いちかわ えんし)を名乗る。昭和8年前進座に入座。18年、衛生伍長として応召、21年に復員。戦後は『七人の侍』『羅生門』など舞台、映画、テレビで活躍した。1952、1955年と2度のブルーリボン助演男優賞受賞。昭和50年没。



せとぐちかおる
瀬戸口郁 脚本

俳優・劇作/文学座所属
慶應義塾大学文学部卒業

俳優として『寒花』『モンテ・クリスト伯』『女の一生』など文学座の舞台を中心に活躍。音楽劇『わが町』(俳優座劇場プロデュース)など座外の出演も多数。舞台の脚本作品に『ザ・クライシス』(文学座アトリエ)、『エゲリア』(文学座)、『明和義人』(制作・わらび座)、ミュージカル『君といた夏』(可見市文化創造センター)、『吾輩はウツである』(劇団朋友)など。脚本作品『てくれつつのば』(劇団文化座)が平成20年度文化庁芸術祭大賞を受賞。同作品は韓国、トルコ共和国での海外公演を行い、全国演劇鑑賞会を巡演。また『真砂女』(劇団朋友)で2013年度岡山市民劇場賞脚本賞を受賞。さらに新作日本舞踊の脚本にも挑戦するなどジャンルを問わず旺盛な執筆活動を展開している。東京藝術大学非常勤講師。



にしかわのぶひろ
西川信廣 演出

日本劇団協議会会長
日本演出者協会理事
新国立劇場演劇研修所副所長
東京藝大客員教授
1949年東京生まれ
1981年文学座座員となる

1988年文学座アトリエの会「クリスタル・クリアー」にて文学座初演出。1992年文学座アトリエの会「マイ・チルドレン」/「マイ・アフリカ」/「紀伊國屋演劇賞個人賞、芸術選奨文部大臣新人賞。1994年文学座公演『背信の日々』で読売演劇大賞優秀演出家賞。1997年文学座アトリエの会『水面鏡』で読売演劇大賞優秀演出家賞及び選考委員特別賞。劇団公演以外にも、『黒革の手帖』(主演:米倉涼子)『信長』(主演:市川海老蔵)(以上、製作:明治座)『マイ・フェア・レディ』(主演:大地真央、製作:東宝)などの大作・ミュージカルから、芸術祭大賞受賞の『てくれつつのば』(文化座)、再演を繰り返す『十二人の怒れる男たち』(俳優座劇場プロデュース)など、幅広く活躍。地域演劇にも力を入れており、可見市文化創造センターから『岸田國士小品選』『エレジー』などを発信。金沢市民芸術村で立ち上げた『おーい幾多郎』も全国で公演された。最近の文学座公演でも、マキノノゾミ作『殿様と私』『エゲリア』など多数演出。

■劇団前進座とは…



代表 中村梅之助



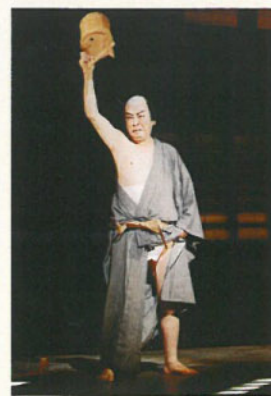
幹事長 藤川矢之輔

1931(昭和6)年に青年歌舞伎俳優らによって創立。2015年に84周年を迎えます。東京は武蔵野市吉祥寺に本拠地を置き、歌舞伎のほかに、本格的な文芸歴史劇、青少年向け音楽劇なども手がけ、演技部・文芸演出部・制作部(京都・大阪・名古屋営業所含む)など約100名の劇団員で幅広い活動を展開しています。

戦前戦後に圧倒的なヴォリュームで文化運動を推進。映画では『人情紙風船』『箱根風雲録』『阿部一族』など多数の名作に劇団総出演、また戦後すぐ『レ・ミゼラブル』『真夏の夜の夢』などの青年劇場運動で全国津々浦々を回り演劇普及に大きな足跡を残

しました。70年代には、『遠山の金さん』『伝七捕物帳』などのテレビドラマで、中村梅之助がお茶の間のスターに。80年代からは、国立劇場での公演が恒例となり、歌舞伎の通し上演などで高い評価を得ています。今日においても都市大劇場から各地小中学校の体育館まで、健やかで楽しい演劇を創造し続けています。

またその歴史においては、戦後レッドパージ期の弾圧や中国の文化大革命の影響で、劇団活動が困難になった時代も、全国の多くの皆様のご支援で劇団を守っていただき、公演を続けて参ることが出来ました。これからも、人々に希望と勇気をお届けできる演劇の創造普及を目指して、劇団員一同努力を続けて参ります。



河竹黙阿弥『魚屋宗五郎』



三浦綾子『母』

戦後70年特別企画『南の島に雪が降る』

上演にあたって

平和を願う皆様のお力添えを心よりお願い申し上げます

時期と 公演地

2015年	7月中旬～8月初旬	西日本各地巡回公演
	8月7日(金)～17日(月)	東京日本橋・三越劇場
	10月中旬～11月初旬	東日本各地巡回公演

■公演形態について…

各地巡回公演につきましては、地元実行委員会形式のご協力を頂戴して、上演運動を展開して参る予定でございます。お一人でも多くの皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。東京日本橋・三越劇場公演は、前売り開始を6月初旬で予定いたしております。団体・グループお申し込みは前売り開始に先立ち承りますのでお問い合わせ下さい。

■お問い合わせなど

劇団前進座 0422(49)2811 までお気軽にお問い合わせ下さい。

〒180-0003 東京都武蔵野市吉祥寺南町2-4-3 前進座ビル303

E-mail tokyo@zenshinza.com